



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2022年
12月09日
発行

第160回

「ストラテジストが見たサッカーワールドカップ」

～不足していたのは経験～

初めに

ワールドカップが佳境を迎えています。残念ながら日本は既に敗退しましたが、決勝トーナメント進出は達成しました。これは評価されるものであると思っています。ところで、当レポートは毎年年末に翌年の「びっくり予想」を作成していますが、昨年末には今年のびっくり予想の一つとして「サッカーワールドカップで日本が初のベスト4進出」を予想しました。的中とはなりませんでしたが、日本チームの健闘を称えたいと思います。

ベスト4進出を予想したわけ

ベスト4進出、といっても理由なく予想したわけではありません。サッカー界のグローバル化がその理由です。私はサッカーに詳しいというほどではありませんが、それでも以前と違って最近は多くの若い選手がスペインやドイツなどサッカー先進国に渡って活躍していることは聞いていました。本田選手など欧州で活躍する選手は前回のワールドカップにもいましたが、若くして欧州に渡り活躍する選手がこれだけ出てきたのは初めてのことでしょう。

サッカー界のグローバル化

このように、欧州に日本の若い年代の有望選手が集まったのは、欧州のクラブチームが欧州以外からのスカウティングを強化していることが原因です。特に、日本の若手選手については日本での評価より欧州での評価の方が高い、という見方もあります。今回のグループリーグではいつも以上に番狂わせが目立ちましたが、これも同じ理由だと思います。戦力の均衡化が進んでいるようです。

クロアチア戦

ここからはクロアチア戦についてコメントします。勝機はあったと思います。ただ、相手が一枚上手だったということでしょう。自分が敗因として考えているのは、PK戦に持ち込まれた、ということです。後半になってからはクロアチアは積極的に攻めようとせず、時間が経つのを待っているように見えました。今にして思えば、最初からPK戦を狙っていたのではないのでしょうか。PK戦に持ち込めばスタミナは関係ありません。一方、日本は若い選手が中心です。ワールドカップの大舞台でいきなりPK戦では実力を出せなくても仕方がないと思います。これがクロアチアが用意していたシナリオで、日本はそれに嵌ったのではないのでしょうか。このように考えると、経験不足が日本の敗因だったように思えます。

日本サッカーの未来は明るい

最後は残念でしたが、これがワールドカップなんだと思います。しかし、ドイツやスペインを撃破したことは日本サッカーの実力を世界に示したことになります。また、グローバル化による戦力の均衡化が進めば、日本にとって有利と考えられます。日本サッカーの未来に期待しています。



チーフストラテジスト
門司さんにきいてみよう!



西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等のご遠慮ください。